

大学院入試経験談

2017 院進 A クラス 黄莹莹

進学において、一番重要なことは目標の設定にあると思います。

日本に来たばかりの頃、だいぶ迷っていました。志望専攻を決めていたものの、研究テーマの方向性や準備にあたって必要なものに関してはほとんど知りませんでした。その上日本語もあまり上手ではなく、相当焦っていた記憶があります。私と同じ境遇の人がたくさんいると思います。このような時、学校の先生方から助けを求めるのが良いのではないかと思います。

日本に来た以上、日本語をしっかり勉強すべきだと思います。日本語力が身につかなければ、何事も進まないでしょう。私は中国国内の大学で日本語を専攻していましたが、来たばかりの頃はほとんど話せませんでした。しかし、当時の私は早く進学したく、駆け足で研究計画書を仕上げました。先生方の情報によると、研究計画書をいち早く完成して指導教授にメールで送ったのは私が最初だったようです。次の日、志望教授からご連絡をいただいたものの、私は教授の質問にほとんど答えられませんでした。案の定、教授から断りの連絡が入り、志望大学への出願をあきらめざるを得ない結果になってしまいました。今回の失敗を喫し、私は焦りは禁物だということを知り、日本語の勉強に専念すると同時に、研究計画書の見直しに取り掛かりました。

日本語はテンポよく勉強し、研究計画書はじっくり時間をかけて仕上げた方が良いでしょう。

まず、学校の先生に相談に乗っていただきましょう。時間をかけて相談をし、先生方からアドバイスをいただくと、研究テーマの方向性や勉強スケジュールが立てやすくなります。その後、個人の実情に合わせて微調整をし、自分にあった大学と指導教授を選び、入学試験までの最終段階が見えてくるのではないかと思います。研究計画書を書くにあたって、まず関連の先行研究を読み、研究計画書の下書きを完成させます。ここまで来たら、さらに多くの関連文献を読み、研究計画書の内容を膨らませていきます。毎回修正を加えた後、必ず指導先生のご意見を仰ぎ、この繰り返しで初めて研究計画書を仕上げることが可能になります。研究計画書と研究テーマの方向性に関しては、私の場合、宮原先生からたくさんご意見をいただきました。宮原先生は読者の角度から自分でも気づかない問題点をたくさんご指摘下さいました。最終版の研究計画書が仕上がるまで、前後数十回の修正が加えられ、時間で言えば、約一年間を費やしました。最初の頃、2千文字だった計画書は最終的に約6千文字まで内容が充実するようになりました。研究計画書の作成はじっくりと時間をかけてやるものだと私は思います。駆け足で書いたものと時間をかけて丁寧に仕上げたものの区別をつくのはいかに容易なものかは言うまでもないでしょう。

また、出願書類の作成や事前の用意、入試前の復習、面接の練習、筆記試験と面接の注意事項等々は、出願が順調に通るか否か、指導教授に良い印象を与えられるか否かなどと深くかかわっているため、重要視すべきでしょう。学校の大澤先生がとても親切で、じっくり時間をかけてご指導くださるので、このあたりは大澤先生に相談に乗っていただくと良いでしょう。

最後は自信をもって試験に臨むだけだと思います。私自身も入学試験で良い成績をとったわけではないため、上記のことはただ単に参考程度のものだと思っていただければ幸いです。

最後に、皆さんも志望校に合格できるようお祈りいたします。